

平成30年度 NIE 実践報告

奄美市立名瀬中学校

1 テーマ

「より豊かな思考力・表現力を身につけさせるための新聞活用の在り方」

2 はじめに（本校の目標・実態等）

本校では実践1年目として、国語科を中心にNIEに取り組んだ。本校の生徒は語彙力に乏しく、言葉への関心も高くない状況にある。授業の中で分からない言葉と直面したときも文脈から考えたり、辞書で調べたりする姿勢は見られない。そこで、新聞記事を活用した活動を通し、豊かな表現に触れることによって表現力を育み、思考力をさらに深めさせていくことを期待して、本テーマを設定した。

3 実践内容

(1) 国語科の授業を通じた実践

ア 第1学年 「根拠を明確にして意見文を書こう」

- ・ 【読むこと】エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。
- ・ 【書くこと】ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

説明文「幻の魚は生きていた」の学習を通して、人間の生活と生き物や環境との関係について考えたことを、自分たちの生活環境に置き換えて意見文にまとめる活動を行った。その際に、南日本新聞のひろば欄を参考にしながら、文章構成や展開の工夫、事実（経験）と意見との結び付け方や示し方の工夫、表現の工夫などを読み取らせた。特に中学生の投稿は、自分たちの普段の経験とも重なるところが多々あり、そのような身近な経験が、意見をもつことの出発点になることを実感した生徒も多かった。また、短い文章の中で、どのような順序で情報を組み立てれば、読み手に届く意見文ができるのかということについて考えさせるきっかけとなった。

イ 第2学年 「メディアの特徴を比べよう」

- ・ 【読むこと】エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

論説文「メディアと上手につき合うために」を読み、「テレビ」「新聞」「インターネット」について、それぞれの長所と短所を読み取る学習を行った。その上で、さらに「新聞」と「ネットニュース」の情報を比較することで、それぞれの記事の特徴や、編集者の意図などを読み取る学習を行った。ネット記事で情報を得ることが多くなってきた中学生だが、その信憑性や発信者の意図といったことについて考える機会は乏しく、同じ事柄を扱った記事でありながら、書き手やメディアによって、記事の内容が大きく異なることに驚いている様子が見受けられた。

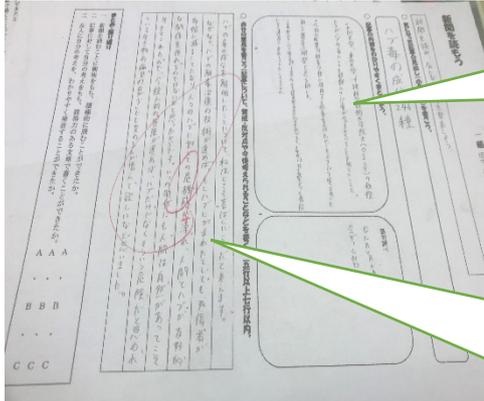


ウ 第3学年

「気に入った新聞記事を伝え合おう」

- ・ 【読むこと】エ…文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと
- ・ 【話すこと・聞くこと】イ…自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること

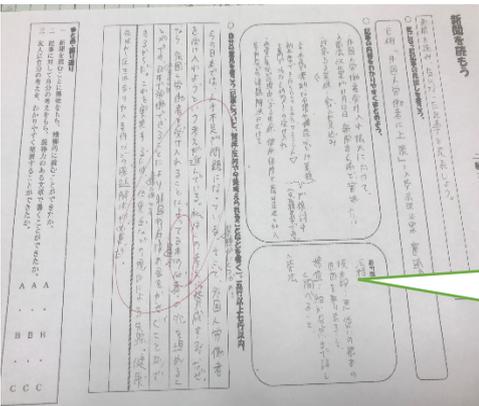
本単元では、毎日・南日本・朝日・日経・読売新聞の過去3ヶ月の新聞を用意し、1時間目に新聞を自由に読む、2時間目に記事の一つを選び、記事についての自分の意見をワークシートに記入する、3時間目にグループの中で新聞記事についての意見を伝え合い、グループ代表が全体に発表するといった流れで行った。以下、生徒の授業ワークシートである。



- **聞き手に説明できるように、記事の内容を自分の言葉で整理し、まとめる。**

- **記事についての自分の意見を、説得力をもたせながら書く。**

- **書くことが苦手な生徒には、「自分は～と考える。なぜなら…。だから、□□□だと考える。」と型を示しながら書かせる。**



- **自分が分からない語句や、聞き手が分かりづらそうな単語はあとで説明ができるように、辞書をひいて意味を記入させる。**

本単元を通し、生徒の新聞への興味・関心の高まりを感じさせられた。また、自分の意見を考えようと語句や出来事の背景について他の新聞とも比較させながら熱心に調べる様子も見られた。一部新聞の読み方が分からない生徒もいたが、1時間目の際に助け合い学習や教師の声掛け等で支援し、最終的には全員が記事を選びぬき、記事に対する意見を記入することができた。今回は記事の内容はあくまで自由（芸能・スポーツを除く）としたが、次回は、政治や環境等ジャンルを設定し、世の中の出来事に関心をもち、自分のものの見方や考え方を広げさせていきたい。

(2) 新聞を活用した校内掲示の工夫

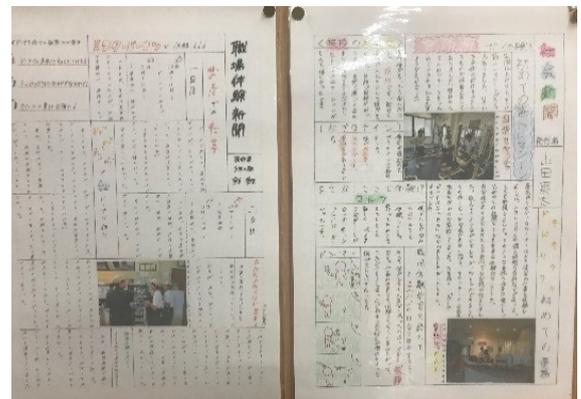
○ 修学旅行新聞



○ 学級新聞



○ 職場体験新聞



生徒作品より

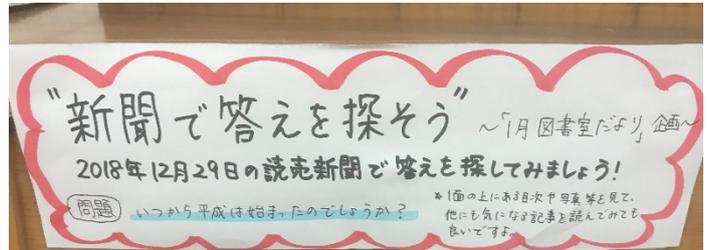
- 見出しの工夫により読み手を惹きつける。
- 図や写真を使い、視覚的に分かりやすくする。
- 自分が体験した出来事に応じ、レイアウトを工夫しながら時系列を整理し、分かりやすくする。

等の工夫が見られた。

(3) 新聞閲覧コーナーの設置



図書室に新聞閲覧コーナーを設け、図書室内に限り自由に読むことができるようにした。本校で毎月発行している「図書便り」や、国語科での呼びかけによって、本を借りに図書室によったついでに新聞を読んだり、NIEの授業を通して新聞に興味を持った生徒が読みにきたりする姿が増えてきている。また、司書と連携し、過去の新聞から答えを探し出すクイズを作成した。「図書室便り」に問題を掲載し、正解を新聞記事から探させる手法をとり、実際に答えを探そうと多くの生徒が興味深く新聞を読んでいた。



4 成果と課題

【成果】

- ・ NIE 教育を通して、新聞への興味・関心が高められ、世の中の出来事に関心を向けて生活することができるようになった。
- ・ 生徒が図書室へと自然に足を運び、新聞を手にとり読むことができるようになった。

【課題】

- ・ 教科を横断し、また、学校全体で NIE 教育を実践するとさらに効果が期待できる。教育課程の中での位置づけを明確にし、取り組んでいきたい。
- ・ 情報収集不足であった。多くの実践例等を活用し、さらに充実した活動ができるように、2年目は綿密な計画を立て、実践数を増やしていきたい。